

肉体として来られたキリスト

(ヨハネの手紙第一4:1~12)

2016年 8月 14日 聖樂教会 主日礼拝 説教録取

説教: 監督 ^{キムソンヒョン}金聖顯牧師

神は

霊でおられるが、

御子を通して人間に会われた

神の御子は私たちを生かすために

肉体としてこの地に来て血を流された(ヘブル 10:19~20)

その方は父の愛でおられるが、

父のふところから私たちに向かって、

真理として走って来られた

私たちの信仰は天と地のどのような権勢よりも

強力な威力を保障されており、(I ヨハネ 5:4~5)

この世のどのようなものよりも貴重な価値をもつ

その理由は

キリストが神の愛を私たちに与えるために

肉体をもって来られたという驚異的な事実にある

私たちは互いに愛し合う信仰生活をすることによって、(I ヨハネ 4:11~12)

神の愛を受けたという事実を認めなければならない

そのようにして

神の愛を完全にすることができる

このような行為は恵みを受けた者がもたなければならない

最も優先的な信仰のしるしであり、

キリストの戒めに対する従順である(I ヨハネ 3:23)

◎教会を愛することによって

主が与えられた恵みを

必ず認めよう

◎主が肉体として来られたことによって

私たちに許された賜物をもって、生きている

教会を作ろう

◎神の愛を

愛によって伝える教会となり、

偉大な伝道の実を結ぼう

※主の恵みを悟るたびに自分を低め、

豊かな感謝の心をもって

聖徒に仕えよう

愛は行為によって価値が発揮される

神は義なる方でおられます。天と地に義なる方はただ神ひとりです。神が義でおられるということを現す性格のひとつは心と御言葉と行いが一致するという点です。神は自分が定めたことと語ったことを必ず実践されます。これは神以外のどのような存在からも見出すことができない特徴です。

一般的にこの世の人々は他の人の言葉を信頼することができません。客が「お金は後で払いますので、先に品物を持って行きます。」というときに、素直に品物を渡すデパートはありません。客の言葉がどんなにまことの心から出て来たとしても同じです。人の心や言葉自体は信頼の対象となることができません。子どもに向けられた「愛する」という親の言葉も100%信頼することができません。親であったとしても子どもを愛さなければならぬという倫理的な圧迫や子どもを通して自分の欲を満たそうとする心によって子どもを養育することがあるためです。親がどんなに「あなたを愛します。」といったとしても、その愛を証明する事実がないのであれば、その愛を信頼することができません。

愛には愛する心と愛を与える行動が含まれています。愛の心も貴重ですが、心にあるものが行為によって証明されなければ、何の価値もありません。愛は行うときに初めて価値が発揮されます。社会での信用関係は法律によって成り立ちますが、法律も実際に行われたことに対してだけ判決を下し、心の中にあるものには価値を置きません。アダムとエバが神の法を犯したときに、ふたりとも他の人に責任を転嫁して言い訳をしましたが、その言い訳は神の判決に何の影響も与えることができませんでした。心の意図よりも実際に現れた行動が判決の対象となるためです。

神を愛するときには行為をもって愛さなければなりません。しかし、問題は人の心と言葉と行動が一致しないという点です。人のこのような品性は悪魔によく利用されるために、人が心の中でどんなに固く決心したとしても実際の行動は決心と異なる場合が多いです。その反面、神は義なる方でおられるために、「あなたがたを愛します。」というその方の御言葉は絶対的に信頼することができる真理です。不義な人間の心は神の愛を疑って認めませんが、私たちを愛されるという神の御言葉の合法性は絶対的です。

神が私たちをどんなに愛するといったとしても、愛の心だけをもっておられたのであれば、私たちは罪と死から脱け出すこともできませんでしたし、律法の懲らしめからも脱け出すことができませんでしたし、死んだ霊が生き返ることもできませんでした。行わないというのはその真実性を認めることができないためです。全人類の罪を担うために必要な愛の行為とは神が自分の血を流して死ななければならないということでした。しかし、神は霊であるために肉体をもっておられませんし、血を流して死ぬこともできません。それゆえ、永遠な刑罰が全人類の前に迫って来ていました。しかし、神は人類を生かすために直接、この地に来て血を流されました。愛を行為として現されたのです。

主は愛を行うために肉体として来られた

神は私たちに愛を行われましたが、その方法とは肉体としてこの地に来られるというものでした。もう一度言うと、神は御座に座って命令をするだけでなく、その愛に満ちた御言葉を極めて低いこの地に遣わし、苦難と死を受けさせ、それによってその血と肉を分け与えられました。主は愛を自ら持って来て施しただけでなく、神が私たちを愛しておられるということを私たちに信じさせました。本質的に心と言葉を信じることができない人間、それで、神の御言葉も信じることができない人間に心と言葉と行動が一致する義なる品性を見せ、それによって神の義を体験させたのです。

主は誰も神の愛を否定することがないように、今日、私たちが住んでいるこの地に2000年前に合法的に来られました。もし主が被造物が認めざるを得ない合法性を介して、この地に来られなかったのであれば、悪魔は「神はあなたを愛していない。あなたはまだ罪人である。」という罠によって私たちを縛り、地獄に連れて行ったでしょう。また、私たちはこの世の惑わしによってすぐに倒れ、信仰を奪われ、病気や貧しさに無惨に屈する信仰生活をしたでしょう。

しかし、主はこの地に肉体として来て、多くの人が見ている中、カルバリで6時間、血を流して死なれました。これは公開された公式的な現場でなされたことです。天と地がすべて見たために、誰もこの事件を消すことができません。神のまことの愛を誰も否定することも隠すこともできません。これは誰も肉体ではない神の霊が人々に錯覚をもたらした、非公式なことであるということができない事件です。神の愛は人類の歴史の中ではっきりと生きています。そのために、私たちを地獄に連れて行こうとしていた悪魔の計画が失敗したのです。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネ 3:16)という御言葉のように、神は私たちのためにこの地に肉体として来て死なれました。私たちはこの事実を必ず信じなければなりません。そのようにしてこそ、神の愛を私たちの中に迎え入れることができます。神は私たちに「神は私たちを愛してくださる。」という知識を与えようとされるわけではありません。私たちに神の愛を迎え入れさせるために人となって私たちに近づいて来られました。その主が私たちに会い、私たちの心と靈魂に神の愛を与えてくださるときに、聖霊が来て、私たちを神から愛される者として確証し、印を押してください。

イエス・キリストが肉体をもって来られたという事実を認める者が神に属した者です(ヨハネ 4:2)。「神が肉体をもって来られたのではなく、霊をもって来られた。」と考えるのであれば、神に属した者ではありません。主は誰も私たちの信仰を奪うことができないように合法的な方法によってこの地に来られました。それゆえ、私たちはどのような悪魔の惑わしと偽りの中でも「神の御子でおられるイエス・キリストが私たちを生かすために肉体をもって来られた。」という事実を信じなければなりません。

互いに愛し合うときに神の愛の中にとどまることができる

主は死ぬ前に、弟子たちに新しい戒めを与えられましたが、その戒めは「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これが私の戒めです。」(ヨハネ 15:12)というものでした。この新しい戒めは古い戒めである律法を代替したものであり、すべてのキリスト者が実践しなければならない戒めです。そして、ヨハネの福音書 15章 9～10節は「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい。もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛の中にとどまるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。」といわれました。すなわち、私たちが互いに愛し合うのであれば、私たちは神の愛の中にとどまっているのです。

ヨハネの手紙第一 4章 11～12節も「愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。」といいました。私たちは主の教会であり、主

の体です。さまざまな器官が互いにつながってひとつの体として動いているように、協力して存在しているのです。イエス・キリストが肉体をもって来られたという事実を信じて神の愛を知るのであれば、これからは互いに愛し合わなければなりません。

私たちが互いに愛し合うのであれば、どのような結果が生じるのでしょうか？ 第一に、神が私たちの中にとどまるようになりますし、第二に、神の愛が私たちの中で完全になされるようになります。神がこの地に肉体をもって来て血を流して成就された愛は 100%、完成されましたが、神の御心は神の愛を知る者が互いに愛し合うときにはじめて完成されます。それゆえ、互いに愛し合わないというのは神の御心に逆らうということです。私たちは新しい戒めを実践しなければなりません。神に義と認められた者であるという自負心を持ち、主のように言葉によって、心によって、行いによって愛さなければなりません。そのようにしてこそ、主の愛の中にとどまることができます。

主の愛の中にとどまるのであれば、この世の苦難と誘惑にも苦しみませんし、喜びに満ちます。このような状態になったときに伝道することができます。神に属した者、イエス・キリストの血によって天に属した者としての姿を備えましょう。誰も見ていない祈祷室で座布団をきれいに整頓することも神に属した者としての姿です。神はこのような小さな姿もすべて覚えられます。互いに愛し合うことによって神が私たちの中にとどまり、神の愛が私たちの中で完全に成就されるようにしましょう。

翻訳：聖樂教会 聖樂宣教センター 日本語翻訳室